

しものせき Port News

令和4年12月
Vol.25

国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所広報誌 しものせきポートニュース

Contents

本港地区 国際フェリー及び国際RORO船について

下関港海岸

7工区進捗報告（黒門地区）

トピックス

山口大学の現場見学会

下関市立王喜小学校のみなと見学会

下関工科高等学校の現場見学会



本港地区（細江埠頭）



本港地区（細江埠頭）

国際フェリー及び国際RORO船について

本港地区 コロナ禍がもたらした影響と対応

本州と九州の結節点である下関港は、1864年(元治元年)高杉晋作により馬関港として開港され、外国船が入港できるようになった歴史のある国際貿易港です。

1970年、本港地区に国際フェリー航路(韓国向け：日本最初の国際定期フェリー航路)が開設、2006年に国際RORO航路(中国向け)が開設され、現在では、国内最大(9便/週)の就航地となっております。

2020年以降の約2年間、コロナ禍による世界の海上コンテナ船輸送と航空輸送における運賃高騰やスペース不足、スケジュール遅延など国際物流が混乱する中、本港地区で運航されている国際フェリー航路(関釜/釜関フェリー)・国際RORO航路(蘇州下関フェリー)の貨物量は増加しております。

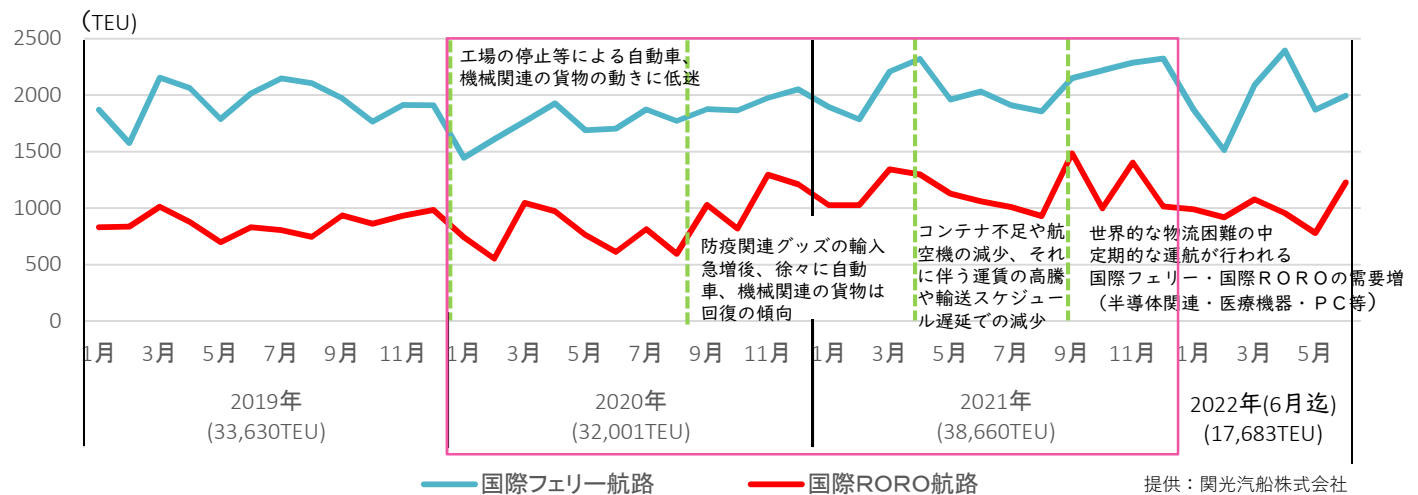


関釜フェリー



蘇州下関フェリー

【国際フェリー航路・国際RORO航路の取扱貨物量の推移(2019年1月～2022年6月)】



その理由について、関光汽船(株)に取材したところ、コロナ禍の影響により、2020年1月～2021年12月までの2年間の貨物量は、増減を繰り返しながらも、貨物量が増加傾向にあったのは、豊富な航海数、スピード、利便性などの強みを活かし、国際RORO航路においては、中国側寄港地での検疫強化等の影響を受けながらも、2021年10月より、変則ダイヤ(5日1往復)切り替えなど荷主ニーズに合わせた柔軟な取り組みにより、安定した航路運営が行われたからとのこと。さらに、2022年5月より、ダイヤを2週3便に切り替えた取り組みがなされています。

フェリーとRORO船の違いって？

フェリー・RORO船ともに貨物を積んだトラックやトレーラーが直接乗り入れて荷役できることは共通ですが、フェリーは車両だけではなく旅客も運送できます。

TEUってなに？

TEUとは貨物の量を個数で表す単位のひとつで、20フィートコンテナを1TEUとし、40フィートコンテナを2TEUと数えます。



再開する旅客運送

新型コロナウイルス感染症拡散防止等のため、令和2年3月より、国際フェリーの旅客運送を休止していましたが、約2年9ヶ月ぶりに令和4年12月16日より、旅客運送が再開されました。

12月16日には、関釜国際航路旅客運送再開セレモニーが行われ、前田市長の挨拶に始まり、船長への花束贈呈、くす玉開披などが行われました。

家族連れなどの乗船者が乗船手続きを行っており、翌日は、釜山からの旅客が訪れました。

今後、下関港において、さらに賑わいが戻ってくることを期待されます。



記念撮影の様子

下関港海岸

7工区進捗報告(黒門地区)

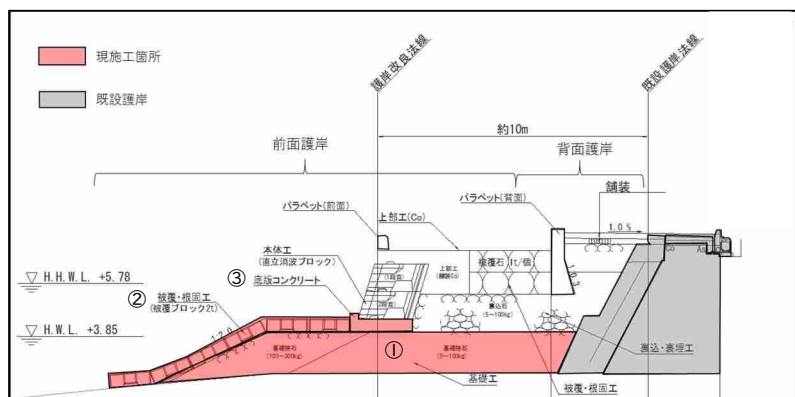
7工区においては、今年の7月より護岸整備に着手しました。8工区(外浦地区)と同様の2重パラペット式護岸構造を採用しており、前面護岸を直立消波ブロック、基礎捨石を保護する被覆ブロックで、背面護岸を現場打ちのコンクリート壁で構成した護岸です。

また、施工箇所は、水深が浅く、海上からの資機材の搬入が困難であること、既設護岸の直背後には国道9号線が控えていることから、基礎工の一部を施工ヤードとして利用し、護岸築造工事を進めています。

現在、基礎捨石による施工ヤード、被覆ブロックの据付、直立消波ブロックを据え付けるための底盤コンクリート打設を行っております。



完成イメージ図



護岸の標準断面図



①施工ヤード整備状況



②被覆ブロック据付状況



③底版コンクリート打設状況



現況



【ブロック製作】

護岸築造に必要な被覆ブロックは、広いヤードを利用して製作しています。製作したブロックはトラックにて、現場に搬入します。



所定の形状となるように鋼製の型枠(枠組み)を組み立てます。



型枠内にコンクリートを流し込みます。



コンクリートが固くなったら被覆ブロック完成!

3 トピックス

山口大学の現場見学会

令和4年10月26日、山口大学工学部社会建設工学科の3年生30名を対象に下関港の現場見学会を行いました。

本見学会は、中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所と協力して、学生を徳山下松港と下関港の2班に分け実施しました。下関港の見学会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、約3年ぶりの開催で、下関港海岸の水門、護岸工事の現場や水理実験センターの実験を見学しました。

学生からは、「現場見学をする機会が大学に入ってから一度もなく、現場が見られてよかった」等と感想が聞かれ、海岸整備の必要性や実際の現場のスケール感などを感じて、将来の就職を決める際の選択等に活かしてもらえればと思います。



新川水門工事の現場見学



護岸工事（黒門地区）の現場見学



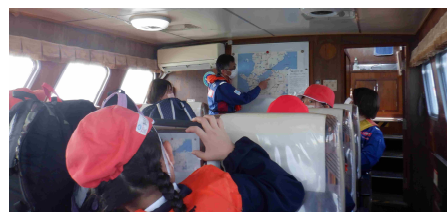
水理実験センターの実験見学
(下関港湾空港技術調査事務所と連携)

下関市立王喜小学校のみなと見学会

令和4年11月8日、下関市立王喜小学校の5年生34名を対象にみなとの見学会を行いました。本見学会は、みなとの出前講座の申し込みを受け実施しており、みなとの必要性、下関港の特徴や関門航路の役割を学習してもらい、関門航路事務所所有の業務艇等を利用し、海上から関門海峡沿いの下関・門司港の街並みや下関港の海岸施設などを見学しました。児童から後日、「めったに見れない景色が見れて嬉しかった」「港の安全を守っていると分かった」「これからの社会の勉強に活かしていきたい」など感想がありました。



事務所内にて座学



「ハックルベリー」に乗船し海上見学



「あみかぜ」に乗船し海上見学

下関工科高等学校の現場見学会

令和4年11月29日、山口県立下関工科高等学校建設工学科土木コース2年生9名を対象に現場見学を行いました。「王喜小学校のみなと見学会」と同様に関門航路事務所と連携して実施し、事業概要を説明後、業務艇「あみかぜ」に乗船し、関門海峡沿いの施設や下関港海岸の工事現場を海上から見学しました。

当日は天候が悪く、景色が見づらかったと思いますが、生徒からは、海岸の護岸構造についての質問等があり、「港の役割や様々な船が活躍していることや、めったに見ることが出来ない海上から現場見学が出来て良かった」と感想が聞かれ、港湾工事の仕事に興味を持ち、今後の勉学等に活かしてもらえればと思います。



事務所内にて事業概要説明



「あみかぜ」に乗船し海上見学



〒750-0066 山口県下関市東大和町2丁目29-1
TEL(083)266-3291 FAX(083)261-1123
HPアドレス <https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/shimonoseki/>

「海と港の総合窓口」
全国共通フリーダイヤル **0120-497-370**
受付時間:9:30~12:00と13:00~17:00(土・日・祝を除く)

ご意見・ご感想をお聞かせください。

